

武雄市の文化財

今回は、武雄市内にある指定文化財のうち、典籍について紹介します。

指定をつけている典籍として、「武雄の蘭書」と「南樞志」があります。

「武雄の蘭書」は平成6年に、武雄市重要文化財に指定されました。幕末において、西洋科学を積極的に取り入れていた武雄は、多くの洋学書を輸入しました。現存するものを分類すると、語学22冊、科学78冊、医学16冊、軍事学13冊、雑学9冊の計138冊があります。

武雄は、洋式大砲の製造・研究にいち早く取り組んだことで知られています。大砲製造は軍事学の一部であり、西洋軍事学は科学に基礎を置いているため、西洋科学の研究取得に武雄は力を入れています。

武雄の蘭書138冊は、武雄の先駆性を証明する資料として大変重要なものであり、全国的に見ても貴重な資料です。



「南樞志」は平成7年に、市指定重要文化財になっています。南樞とは、明

(1368～1644)の首都南京のことです。この本は、明の役人であった沱景文等によって、編さんされたものです。

内容は南京を中心とした明代兵政史のようなもので、それに関連する人物列伝・南京兵部年表等が書かれています。

武雄には78冊が保存されていますが、世界的には台湾の国立中央図書館所蔵の48冊と武雄の78冊の2組が残っているだけで、大変希少価値の高い書物です。本書は武雄鍋島家に伝わるもので、どのような経路で武雄にきたのかは不明です。



武雄市図書館

歴史資料館だより



第二十九回古典講座受講者募集

武雄市図書館・歴史資料館では、古典講座を次のとおり開催します。

- 内容 紫式部日記
- 講師 小川成文先生
- 期間 6月～1月(8回)
- 毎月 第2水曜日
- 時間 午前10時～12時
- 場所 武雄市文化会館大集会室B
- 参加費 1050円
- 締切 5月25日(金曜日)

目の不自由な方へのサービスについて

武雄市図書館・歴史資料館では、目の不自由な方へのサービスを実施しております。

サービスの内容は、音訳サービスと点訳サービスです。ご希望の方は、図書館・歴史資料館までご連絡ください。

武雄市図書館の祝日開館について

武雄市図書館・歴史資料館では、従来祝日開館を5月5日のこどもの日と11月3日の文化の日としておりましたが5月からはその他の祝日も開館することとなりました。多くの市民の皆さんのご来館をお待ちしております。

人の動き

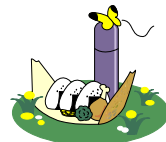


総人口	52,095人
男	24,650人
女	27,445人
世帯数	16,786世帯

武雄町	15,956人(+73)
橘町	2,839人(-16)
朝日町	5,649人(-63)
若木町	1,993人(-29)
武内町	2,725人(-46)

東川登町	2,658人(-44)
西川登町	2,217人(-35)
山内町	9,554人(-65)
北方町	8,504人(-96)

()は平成18年3月末日との増減



平成19年3月末日現在